

# 新普通科系高校創設に向けての「まとめ」

平成28年9月

京都市立新設高校創設プロジェクト

## 目 次

1	新普通科系高校の創設に向けて	… 1
2	目指す生徒像・学校の基本コンセプトについて	… 3
3	教育課程や教育活動の具体化について	… 4
	（1）京都の都市特性を最大限に生かした教育活動の在り方	
	（2）魅力あふれる教育課程の編成と授業の在り方	
	（3）生徒の主体性を引き出す教育活動の在り方	
	（4）小・中学校等や地域と連携した教育活動の在り方	
	（5）チームとして協働する学校の在り方	
4	施設・設備について	… 8
	（1）生徒が主体的・能動的に学びあう施設・設備	
	（2）「魅せる高校」のための施設・設備	
	（3）地域が輝く施設・設備	
5	学校規模・設置学科について	… 10
	（1）学校規模について	
	（2）設置学科について	
6	今後に向けて	… 11
< 参考資料 >		
1	京都市立洛陽工業高校跡地における「新しい普通科系高校の創設に関する基本方針」	… 12
2	京都市立新設高校創設プロジェクト名簿	… 14
3	検討経過	… 15
4	創設プロジェクト（有識者会議）等での主な意見	… 16
5	「中間まとめ」に対する市民意見について	… 19

## 1 新普通科系高校の創設に向けて

本市においては、これまでから常に時代の変化を見据え、生徒一人一人の個性の伸長と進路希望の実現を図るため、市立高校の各校が創意工夫を凝らした特色ある教育活動を展開してきた。平成28年4月には将来の日本の「ものづくり」「まちづくり」をリードする担い手の育成を目指して、洛陽工業高校と伏見工業高校を再編・統合した京都工学院高校が開校したところである。

これにより、平成29年度以降に活用が可能となる洛陽工業高校の跡地に関し、平成26年8月に洛陽工業高校同窓会である洛陽京工会から「洛陽工業高校の跡地は学校施設として活用して欲しい」旨の要望が、また同年11月には塔南高校の同窓会、PTA役員経験者などで組織されている塔南高校愛校会、塔南高校PTA、塔南高校の4団体から「立地、施設の老朽化や狭隘（きょうあい）な状況等の課題解決に向け、洛陽工業高校跡地へ塔南高校を移転させて欲しい」旨の要望がそれぞれ教育長へ提出されている。

塔南高校は、生徒急増期にあった昭和38年、当初は中学校用として計画されていた施設を転用し、それまで普通科と工業科を併置していた洛陽高校、伏見高校両校の普通科生徒を受け入れる形で全日制普通科単独校として開校した。以来、教職員の熱意ある取組によって、平成5年度には現役国公立大学合格者が74名（京都府下公立高校トップ）となるなど、様々な分野で活躍する卒業生を数多く輩出してきた。

また、平成19年度には教師として求められる「知性」「志」「実践力」を高校段階から育成する全国初の教員養成系専門学科として「教育みらい科」が設置された。生徒たちは同じ志を持った仲間と将来を語り合いながら実践的な取組を通して切磋琢磨し、教師として必要な資質・能力の基礎を培っている。

一方、交通の利便性に課題があるほか、生徒一人当たりの校舎面積が市立高校で最も狭い状況であること、老朽化が進む中で建物全体の約7割（床面積比）が耐震補強を要するなど立地面や施設には様々な課題を抱えている。

こうした状況を早急に改善し、より充実した教育環境の下で最先端の高校教育を展開できるよう、現在の塔南高校を洛陽工業高校の跡地に移転・再編し、新普通科系高校を創設する「京都市立洛陽工業高校跡地における『新しい普通科系高校の創設に関する基本方針』（以下、「基本方針」という。）が平成27年6月に京都市教育委員会において策定さ

れた。

この「基本方針」の具現化に向けて、中学校・高等学校校長会および塔南高校の管理職・教職員で構成する「京都市立新設高校創設プロジェクト」（以下、「創設プロジェクト」という。）を平成27年7月に設置し、大学や産業界、保護者の方からもご意見をいただきながら、次代を担う新普通科系高校の教育内容や学校規模、施設・設備などの骨子について検討を進め、平成28年5月に「中間まとめ」を策定した。

また「中間まとめ」に対して、平成28年6月から7月にかけて、約1ヶ月間の市民意見募集を実施したところ市民の皆様、塔南高校の生徒など1,088名の方々から1,781件の多岐にわたるご意見を頂戴した。その概要とご意見に対する考え方は19頁のとおりである。

本「まとめ」は、市民の皆様からのご意見も踏まえ、「中間まとめ」を加筆修正して策定したものであり、今後、新普通科系高校の教育内容や本年度策定予定の施設・設備に関する「基本構想」に具体化させていくことが必要である。

## 2 目指す生徒像・学校の基本コンセプトについて

「基本方針」において、新普通科系高校では、日本が目指す科学技術イノベーション立国を見据えるとともに、塔南高校において様々な分野で活躍する生徒を育ててきた教育風土をしっかりと引き継ぎ、多様な分野で「社会に貢献する生徒の育成」を学校の最高目標としている。

また、その最高目標の実現に向け、学校教育と実社会とのつながりを重視した教育活動の下、「国際的な視野を持って主体的に社会に参画し、自立して社会生活を営むために必要な力」を育むことを教育活動の基軸として学校づくりを行うこととしている。

「基本方針」に示された「目指す生徒像」と「学校の基本コンセプト」は以下のとおりである。

### 目指す生徒像

- ① 自らの将来像を描き、その到達に至る道筋と達成すべき課題を明確にして、目標の実現に向けチャレンジし続ける生徒
- ② 在校生はもとより、小・中学生や地域の方々等、世代や立場を超えた人々とも積極的に交流し、他者と協働して活動できる力を培い、多様な価値観や生き方を学びながら、自己の成長につなげることができる生徒
- ③ 国際化や情報化の進展する社会において、地域や社会の課題を多角的にとらえる視野を育み、科学技術分野や教育分野をはじめとする多様な分野で社会に貢献する気概を持って、社会的課題の解決や新しい価値の創造に向けて行動し、社会の発展に寄与することのできる生徒

### 学校の基本コンセプト

- ① <生徒が主体的・自律的にいきいきと活動する学校>  
学習活動はもとより、生徒会活動や部活動などすべての教育活動において生徒が自発的に、意欲をもって全力で取り組める環境を提供する学校
- ② <地域に貢献し地域と共に発展する学校>  
地域の小・中学校との連携事業を継承・発展させるとともに、地域でのボランティア活動や伝統行事などに生徒が積極的に参画することを通して、地域の発展に貢献するなど、地域と共に歩む学校
- ③ <生徒の持つ可能性を引き出し、高める学校>  
生徒が成りたい自分を描きながら、夢や希望を持って学校生活を送れるよう、個の可能性を最大限に引き出し、その実現に向けて、一人一人を徹底的に大切にす学校  
(「基本方針」から抜粋)

### 3 教育課程や教育活動の具体化について

創設プロジェクトでは、大学や産業界、保護者の方が参画する「有識者会議」でご意見をいただきながら「基本方針」に示された「目指す生徒像」と「学校の基本コンセプト」の具体化に向けた協議を進めてきた。

第3章以下は、創設プロジェクトでの約1年間にわたる協議と「中間まとめ」に対する市民の皆様からのご意見も踏まえ策定したものであり、今後の検討にあたっては、学校現場と教育委員会で検討組織を設け、学習指導要領の改訂や高大接続改革などの動向を見据えつつ、施設整備計画と歩調を合わせ、本「まとめ」の更なる具体化を進めていく必要がある。

#### (1) 京都の都市特性を最大限に生かした教育活動の在り方

世界文化交流の中心として、「全世界のひとびとが……平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市」となることを宣言した「世界文化自由都市宣言」を都市の理想像として掲げる京都市には、1200年を超える歴史の中で磨き上げられた伝統と文化が、人々の衣食住や日々の生活に受け継がれ、多様な魅力と個性が輝き、それぞれの地域の暮らしに人々の絆がいきいきと息づいている。

今日、京都には日本国内のみならず世界各国からも観光や国際会議、学術研究などで訪れる人が急速に増加しており、多様な文化的背景をもつ人々同士が触れ合う機会も増えている。このたび文化庁の京都への全面的な移転が決定されたが、こうした京都が有する魅力と国内外への影響力が評価された結果であり、日本文化の更なる振興・発信と「文化芸術立国・日本の実現」に寄与する京都の役割はますます大きくなっている。

また、世界有数の大学数を誇り、学生文化の息づく「大学のまち・学生のまち」でもあり、国内外の知が融合する大学の研究機関において、様々な分野で世界をリードする最先端の研究が行われている。さらに、「ものづくり都市」として伝統産業から先端技術産業に至るまでの多様な産業が集積しており、京都に本社を置き世界を舞台に活躍する企業が多数存在している。

こうした多様で奥深い都市特性を有する京都は、生徒が様々な分野の人との交流を通じて刺激を受ける機会に恵まれており、自らの生き方への思索を深め、人として成長していくうえで絶好の学びの場であるといえる。

新普通科系高校では、これまで塔南高校が積み重ねてきた教育実践を継承・発展させるとともに、京都という都市の強みや文化力を最大限に生かし、高い目標に果敢に挑戦する意欲、新しい文化や科学技術のイノベーションを創出する柔軟な思考力と斬新な発想力、そして行動力を兼ね備え、将来、京都はもとより、我が国の発展に貢献する担い手の育成を目指す。

## （２）魅力あふれる教育課程の編成と授業の在り方

生徒の夢の実現に向け、大学進学のみを最終目標とせず、将来、社会において自らの力でキャリア発達をすることのできる礎を培うことが必要である。

そのためには、きめ細やかな授業の展開はもとより、学習ニーズに応じた課外学習の展開や家庭学習の促進などにより、知識、技能などの学力の確実な定着を図るとともに、生徒が社会において他者と協働しながら主体的に生活していけるよう、言語技術の習得を基盤としてコミュニケーション力や実行力などの社会人基礎力<sup>\*1</sup>を高めることに主眼を置いた教育課程を編成する。

その際、他者と協働し解決策を考え実行する力を育成するため、「総合的な学習の時間」を教育課程の核として、身近な「地域」課題から、科学技術創造立国を目指す我が国の展望など幅広い課題をテーマとした文理の枠にとらわれない探究活動を行う。教科においては「総合的な学習の時間」での学習と関連付けながら、生徒の興味関心に応じた学習テーマでの授業づくりを行うとともに、学びの主体である生徒が能動的に学習に取り組めるよう、すべての教科でその特性や学習内容に応じた効果的なアクティブ・ラーニング<sup>\*2</sup>を展開する。また、唐橋地域近辺の多くの企業が集積している南区の地域特性を生かし、企業や大学等でのインターンシップや講師を招いた授業などを通して、最先端の科学技術の知見やグローバルイノベーション活動の一端、また、ベンチャー精神や起業家マインドにふれ、学習と自分の将来を結びつけるとともに、社会における課題や現象の多くが、様々な分野が複合的に関連しながら生じていることを気付かせる創造的な活動を進める。

さらに、京都が誇る悠久の歴史と伝統が育んだ文化や芸術を学び、自国文化に対する理解と誇りを高めるとともに、相互に留学生を受け入れる姉妹校提携等による国際交流プログラムの実施を検討し、異なる歴史や文化を持つ他者と協働する力や国際的な教養を養う取組を進める。

- ※1 社会人基礎力 … 組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力で、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力から構成される。（経済産業省が提唱）
- ※2 アクティブ・ラーニング … 教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。「審議のまとめ」（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会 平成28年8月）では、アクティブ・ラーニングを「主体的・対話的で深い学び」と定義し、①物事に対する見方・考え方を身につけ、理解する「深い学び」、②多様な人との対話により、考えを広げ深める「対話的な学び」、③自己のキャリア形成と関連付けて学ぶ「主体的な学び」の実現が重要としている。

### （3）生徒の主体性を引き出す教育活動の在り方

生徒が自立して社会生活を営んでいくうえで基盤となる、物事に対して自発的に取り組む主体的な態度や能力を育む教育活動を展開するため、生徒が委員会活動やボランティア活動の一環として、海外研修や学校説明会等の学校行事の企画・立案から、運営までを行える枠組みを構築する。

部活動については、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等にも資するものであり、現在、塔南高校では学習と部活動の両面から人間力の向上を目指す「文武一貫」を教育方針に掲げ、部活動が活発に行われているところである。こうした伝統を引き継ぎ、体育系や文化系、科学系など分野を問わず多様な部活動を活性化していく。

反面、高校生活の充実感が部活動のみになったり、学習に向き合えなくなる生徒がいることも事実であり、教育活動と部活動の高いレベルでの両立をさらに徹底し、学校行事日の設定の工夫や部活動の土日の休養日の設定などにより、全員参加を前提とした活動等を行う仕組みを検討する。さらには、生徒自らが活動計画や活動内容等を可能な限りマネジメントできる仕組みの構築や、学期毎に登録できる部活動や課外活動を設置するなどの工夫を行い、様々なスポーツや文化活動等を幅広く経験しながら、生徒が自らの可能性に気づき、その可能性を高められるよう多様な教育活動を展開する。

### （4）小・中学校等や地域と連携した教育活動の在り方

新普通科系高校では、生徒が仲間と支え合いながら世代を超えた交流を通して、新たな価値に出会い、国際化・情報化・少子高齢化など社会が変化するなかでの人と人とが結ばれた地域社会の在り方やスマートシティなど将来の都市像を見据えながら、よりよい「未来」を創り出し、その発展の担い手として成長する生徒の育成を目指す。



このため、塔南高校の教育みらい科での小学校との連携事業を引き継ぐとともに、洛陽工業高校での地域清掃、防犯・防災等のボランティア活動や福祉施設との連携事業の更なる充実や幼児との交流など、教育活動におけるダイバーシティ<sup>※3</sup>化を推進し、多様な他者との関わりを通して、協働する力を育成する活動を展開する。

また、そうした活動を身近な地域の課題をテーマとする探究活動に結び付けるとともに、その成果を生徒の企画運営のもとで小・中学生や地域の方々へ積極的に発信し、高校生が地域において幼児、小・中学生と大人とを繋ぐ役割を果たしながら、地域に様々な世代間の交流を創出する。

さらに、新普通科系高校が地域の生涯学習の拠点となるよう地域の人とともに学ぶ機会として、企業・大学から講師を招いた公開講座などを実施する。こうした地域とともに歩む学校づくりを進めるため、学校・家庭・地域がともに学校運営について協議し、行動する本市初の高校での「コミュニティ・スクール」の導入に向けた準備を進める。

※3 ダイバーシティ … 性別、年齢、国籍、障害の有無といった個人の属性にかかわらず、多様な人材の「違い」を尊重し、かつその「違い」に価値を見出し、能力や発想、価値観を融合する考え方。

## （５）チームとして協働する学校の在り方

上述のような教育活動の推進にあたっては、教科や分掌の枠を超え、教育目標の実現に向けて全教職員が一丸となって取り組んでいくことが必要であり、卒業時までには生徒に身につけさせたい力を明確にするとともに、学年ごとに到達する指標を設定し、学期毎などの短いスパンで、授業や指導の在り方をPDCAサイクルで改善につなげていく。

また、教職員のチームとしての力を高めるためチームビルディングや生徒の主体性を引き出すためのコーチングスキルに関する教職員研修を定期的実施する。あわせて、効率的・効果的な業務の遂行のため、ワーキンググループなど、分掌の枠を超えた仕事の組織づくりを行う。

さらに、企業の退職者や大学生、部活動での外部指導者など、外部の方々の力を学校に生かしていけるよう検討するとともに、そうした方々の安定的な確保や企業・大学等との連携事業を円滑に実施できるよう専門のコーディネーターを核とする教育支援組織（サポートボード）を校内に設置し、洛陽工業高校跡地のある唐橋学区をはじめとした地域の方々や高等学校コンソーシアム京都、大学コンソーシアム京都とも連携しながら、特色ある教育活動を支える仕組みを構築する。

## 4 施設・設備について

新普通科系高校においては、地域のシンボルとなるような学校施設を目指して、地域連携や地域活動を担う学校施設の在り方を検討する。また、生徒の主体的な学びや特色ある教育活動に適した機能とともに、教育内容、教育手法などの変化に柔軟に対応するため、部屋の形状や用途の変更が可能となる自在性を備えた機能を有することが必要である。あわせて、一部の施設の運営や維持管理については、土日等の施設開放や教職員の負担軽減の観点から民間事業者への業務管理委託とともに、共生社会の実現に向けた障害者就労事業所等との連携なども視野に入れて検討する必要がある。

### (1) 生徒が主体的・能動的に学びあう施設・設備

現在、高校教育においても、講義形式の授業から双方向での授業や生徒間での話し合い、発表の機会の充実へと授業形態が変化してきており、施設面からも生徒の主体的・能動的な学習を促進し、生徒同士での議論の活性化につながる環境の整備を目指す。例えば、少人数での話し合いや発表が行いやすいなどアクティブ・ラーニングに適した教室の在り方やラーニングコモンズ<sup>※4</sup>の機能を充実させた図書館等の設置が望まれる。さらに、少人数での講座や補習にも対応した教室や、廊下などの開かれた空間で自由に議論が生まれるスペースの整備、大講義室としての活用だけでなくプレゼンテーションや交流行事などで活用できるホールの設置等が必要である。

また、生徒が探究活動や学校行事、部活動等に取り組む際、タブレット端末等の ICT 機器を積極的に活用し、必要な情報に素早くアクセスし、その情報を自ら活用、また他者と共有するための環境を構築するため、校内の Wi-Fi 環境をはじめとする充実した ICT 機器等を整備する。

※4 ラーニングコモンズ … 複数の生徒が集まって、電子情報や印刷物など様々な情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。

### (2) 「魅せる高校」のための施設・設備

科学技術をはじめとする最先端の教育内容に対応できる特別教室や展示スペースを確保し、資料や標本を充実させ、地域の小・中学生等への開放や小・中学生と高校生とが共に実験や学習を行うことができる施設・設備の整備を検討する。

また、学習・部活動の合宿や海外からの留学生の受け入れが可能となる宿泊機能を備えた研修施設のほか、小・中学生や地域の方とのワークショップ、全学年が参加可能な発表会・ポスターセッションなどが行える多機能型の施設を検討する。

グラウンドや体育館については、体育の授業や部活動、体育行事などのスポーツを「する」場であるだけでなく、文化的行事や文化部活動にも活用できる施設となるよう整備するとともに、地域の方々にも応援・観戦していただける「観る・支える」場を意識した施設・設備の整備が望まれる。

なお、体育館については、これまでの京都市立高校体育施設開放事業をさらに発展させ、南区を中心とする地域の体育館として、市民の方にも広く使っていただけるための施設としての在り方も検討する。

### **(3) 地域が輝く施設・設備**

地域に開かれ、地域の活性化や発展に寄与する拠点となるためには、連携事業において地域と交流するだけでなく、地域開放型の図書室やカフェテリア、地域や卒業生が集える会議室など、日常的に高校生と地域の方や卒業生、小・中学生とが触れ合う機会や場の創出が必要である。

なお、その際、教育活動のスペースと地域との共有スペースを区分けするなど安全面での配慮も必要である。

あわせて、災害時における被災者の受け入れや救援物資の備蓄、消防器具の保管など防災拠点としての機能を有することが求められている。

## 5 学校規模・設置学科について

### (1) 学校規模について

平成28年度入学者選抜における塔南高校の募集定員は、京都市・乙訓地域の中学3年生の生徒数及び普通科系高校の志願者の動向などを踏まえ、普通科6学級と教員養成系専門学科である教育みらい科1学級の合計7学級(280人)となっている。

新普通科系高校では、生徒の能力や個性を最大限に伸ばすための教育課程や部活動、生徒会活動等の活性化など、特色ある教育活動を展開するため、京都市立中学校をはじめ中学生数が減少傾向ではあるが、現在の塔南高校と同程度の規模を確保することが望まれる。

### (2) 設置学科について

塔南高校では「文武一貫」教育のもとで、進学や学習内容の定着のための土曜補習や朝学習を実施し、学習の習慣化と学習意欲の向上を図っているところである。こうした塔南高校のこれまでの取組の成果と課題を明らかにし、社会においてたくましく生き抜くための社会人基礎力を身につけさせる指導とともに、進路展望を高め主体的に学ぶ生徒を育む教育課程の構想を目指すことが重要となっている。

また、教員養成系専門学科である教育みらい科においては、入学生対象のアンケートにおいて、教育みらい科を選んだ理由として「教育みらい科の教育内容に興味を持ったから」が最も多く、「将来教師になりたいから」を上回っている。教育みらい科のすべての入学者が教員を志望しているわけではなく、教育内容そのものにも興味を持ち、専門科目を通して身につけた力が医療や福祉等の仕事に生かせると考えて入学した生徒も少なくない。

また、同じく卒業生へのアンケートによると、教育みらい科で実施している「教育課題探究」や「小学校現場実習」での学習や経験は、大学の推薦・AO入試や大学入学後のゼミ活動等においても非常に役立っているという意見が多く、卒業までの3年間で、生徒は自らの考えを言葉で伝える表現力や、課題解決のために集団で議論を進めるために必要なコミュニケーション能力を高めていることがうかがえる。

しかしながら、教育みらい科が1学級の規模ということもあり、その先進的な取組内容が普通科全体に普及できていないなどの課題がある。

こうしたもと、今後、設置学科の検討にあたっては、教育みらい科の発展・見直しも含め、目指す生徒像の実現という観点から更に検討を進

める必要がある。

## 6 今後に向けて

グローバル化や情報化，人工知能（AI）の発展が加速度的に進むことが予想されるなか，現在の小学生の65%は将来，今の社会には存在しない職業に就くといわれるなど，一層激しく変化する社会を生き抜く子どもたちにどのような力を育む必要があるのかということが教育に問われている。

先般，次期学習指導要領に向けた審議のまとめ案が公表され，そこではより主体的に，より対話的に，より協働的に，より深く，いわゆる課題発見・課題解決型学習が求められており，単なる知識だけでなくその知識をどのように生かしていくかが重視される教育への質的転換が示されている。

新普通科系高校では，こうした社会の変革や教育改革の方向性など時代の潮流を的確に捉えつつ，「京都市南部の核であり，高校教育のモデルとなる新しい学校」「この学校でしかないというような特色のある学校」というパブリックコメントにおける市民の皆様からの期待に応えられるよう，今後ともこれからの教育がどうあるべきかについて，夢を追い理想を追求し，市民の皆様や学識者，産業界など幅広い分野の方々のご意見を頂戴しながら，次代を切り拓く高等学校を創りあげていかなければならない。

## 参考資料 1

### 京都市立洛陽工業高校跡地における

#### 「新しい普通科系高校の創設に関する基本方針」

新しい普通科系高校（以下、新・普通科系高校）の創設に向け、下記の基本方針の下、教育内容や施設設備等の在り方について検討を進める。

#### 記

### 1 新・普通科系高校の創設に向けた考え方と方向性について

洛陽工業高校の跡地に関しては、平成28年4月の京都工学院高校の開校に伴い、平成29年度以降に活用が可能となる。平成26年8月に洛陽工業高校同窓会である洛陽京工会から「跡地の学校施設としての活用」要望が、また同年11月には塔南高校同窓会、愛校会、PTA、塔南高校の4団体から「立地、施設の老朽化や狭隘な状況等の課題解決に向け、洛陽工業高校跡地への移転」要望がそれぞれ教育長へ提出された。

塔南高校は、昭和38年、それまで普通科、工業科を併置していた洛陽高校及び伏見高校の普通科生徒を受入れる形で設立されたものであり、洛陽工業高校と非常に深い所縁があり、こうしたことを踏まえるとともに高校教育に対する市民の高いニーズに応えることができることから、洛陽工業高校の跡地に塔南高校を移転・再編し、新・普通科系高校を創設する。

### 2 目指す生徒像・学校の基本コンセプトについて

新・普通科系高校では、日本が目指す科学技術イノベーション立国の姿を見据えるとともに、塔南高校において教育界をはじめとする様々な分野で活躍する生徒を育ててきた教育風土をしっかりと引継ぎ、多様な分野で「社会に貢献する生徒の育成」を学校の最高目標とする。併せて、地域や企業、小・中学校と連携した教育実践や生徒の主体性や自律性を育ててきた教育風土を継承・発展させ、学校教育と実社会とのつながりを重視した教育活動を展開し、「国際的な視野を持って主体的に社会に参画し、自立して社会生活を営むために必要な力」の育成を目指した学校づくりを行う。

#### (1) 目指す生徒像

- ① 自らの将来像を描き、その到達に至る道筋と達成すべき課題を明確にして、目標の実現に向けチャレンジし続ける生徒
- ② 在校生はもとより、小・中学生や地域の方々等、世代や立場を超えた人々とも積極的に交流し、他者と協働して活動できる力を培い、多様な価値観や生き方を学びながら、自己の成長につなげることができる生徒
- ③ 国際化や情報化の進展する社会において、地域や社会の課題を多角的にとらえる視野を育み、科学技術分野や教育分野をはじめとする多様な分野で社会に貢献する気概を持って、社会的課題の解決や新しい価値の創造に向けて行動し、社会の発展に寄与することのできる生徒

## (2) 学校の基本コンセプト

### ① <生徒が主体的・自律的にいきいきと活動する学校>

学習活動はもとより、生徒会活動や部活動などすべての教育活動において生徒が自発的に、意欲をもって全力で取り組める環境を提供する学校

### ② <地域に貢献し地域と共に発展する学校>

地域の小・中学校との連携事業を継承・発展させるとともに、地域でのボランティア活動や伝統行事などに生徒が積極的に参画することを通して、地域の発展に貢献するなど、地域と共に歩む学校

### ③ <生徒の持つ可能性を引き出し、高める学校>

生徒が成りたい自分を描きながら、夢や希望を持って学校生活を送れるよう、個の可能性を最大限に引き出し、その実現に向けて、一人一人を徹底的に大切にしている学校

## 3 教育構想の具体化について

今後、塔南高校の教職員、教育委員会及び中学校・高等学校長会で構成するプロジェクトを組織し、「目指す生徒像」の下に「学校の基本コンセプト」を具体化するため、次の観点を基に検討する。

なお、検討の過程において、適宜、有識者や保護者の方等から御意見をいただく。

### <検討の観点>

- ① 生徒が主体的・協働的に学習する授業への質的転換や高大接続改革など、国での教育改革の方向性を見据えた魅力あふれる教育課程の編成と授業の在り方、生徒会活動や部活動など生徒活動の在り方
- ② 小・中学校や地域団体をはじめ、地元企業や大学と連携した教育活動の在り方
- ③ 多様な分野において社会で貢献できる人材の育成に向け、生徒のキャリア発達を適切に支援し、多様な進路希望を実現する学校体制と指導の在り方
- ④ 新しい教育活動を展開するにふさわしい普通教室や特別教室、ICT 機器をはじめ、幅広い学習活動や部活動を展開するための施設・設備や学校規模の在り方

(平成27年6月4日 京都市教育委員会で議決)

参考資料 2

京都市立新設高校創設プロジェクト名簿

< 役職等は平成 27 年度末現在 敬称略 >

1. 有識者

氏 名	役 職 等
北川 進	京都大学物質－細胞統合システム拠点長 京都大学大学院工学研究科教授
溝上 慎一	京都大学高等教育研究開発推進センター 教授
武田 靖史	村田機械株式会社 取締役 業務支援本部 本部長
今野 圭子	中学校 P T A 代表 (京都市立中学校 P T A 連絡協議会庶務・近衛中学校 P T A 会長)
村上 久明	高校 P T A 代表 (京都市立高等学校 P T A 連絡協議会会長・西京高等学校 P T A 会長)

2. 「京都市立新設高校創設プロジェクト」委員

氏 名	役 職 等
古池 強志	京都市立塔南高等学校 校長
村上 英明	京都市立西京高等学校 校長 (京都市立高等学校長会代表)
田邊 美野利	京都市立七条中学校 校長 (京都市立中学校長会代表)
大黒 喜裕	京都市教育委員会 指導部 担当部長
三宅 慎一	同 指導部学校指導課 担当課長
川浪 重治	同 指導部学校指導課 首席指導主事
辰巳 敏秀	同 指導部学校指導課 課長補佐
末房 和真	同 指導部学校指導課 指導主事

※その他、オブザーバーとして、塔南高校の教職員が出席。

氏 名	役 職 等
沓谷 恭子	京都市立塔南高等学校 教頭
正木 廣樹	同 主幹教諭
黒澤 寛己	同 教諭
松田 尚久	同 教諭
飯島 弘一郎	同 教諭



### 参考資料3 検討経過

日 程	会 議	内 容
27年7月1日	第1回 プロジェクト会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>経過説明, 今後の予定説明</li> <li>塔南高校の現状と課題の報告</li> <li>「中間まとめ(案)」の方向性の確認</li> </ul>
7月28日	第2回 プロジェクト会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>「中間まとめ(案)」の方向性検討</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>「中間まとめ(案)」作成</li> </ul>
8月20日	第1回 有識者会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの経過説明</li> <li>「中間まとめ(案)」について意見交換</li> </ul>
9月14日	事務局・学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐橋自治連との意見交換</li> </ul>
10月23日	第3回 プロジェクト会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>有識者会議や地域等からの意見をふまえ「中間まとめ(案)」検討</li> <li>「総合的な学習の時間」の在り方等について検討</li> </ul>
11月10日	第2回 有識者会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>修正箇所の確認</li> <li>「中間まとめ(案)」検討</li> </ul>
12月21日	第4回 プロジェクト会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>有識者会議での意見をふまえ「中間まとめ(案)」検討</li> </ul>
28年2月12日	事務局・学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐橋自治連との意見交換</li> </ul>
3月2日	第3回 有識者会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>「中間まとめ(案)」の最終検討</li> </ul>
6月3日～ 7月4日	市民意見募集(パブリックコメント)の実施	
8月10日	第4回 有識者会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブコメの報告とまとめ案の検討</li> </ul>

## 参考資料4 創設プロジェクト（有識者会議）等での主な意見

### 1. 教育内容・教育活動等について

- 身近な社会である「京都」をキーワードに、地域での活動や伝統文化、企業活動などのテーマから生徒が選択し、地域や企業等と連携した探究活動を「総合的な学習の時間」を活用して実施する。
- 教科学習についても「京都」と結びつけたカリキュラム編成や教材作成を検討し、例えば「教育みらい科」も「京都ならではの教員を養成する」観点から見直してはどうか。
- 全ての教科・領域において、教科書で習う内容がいかに実社会に結びついているか、実感できるような取組ができないか。
- 「クエスト大学カナダ」では、1つの教室に5、6人用の演習室が6室併設されており、生徒は課題についてグループに分かれその演習室で議論や作業を行い、再び教室に戻って今度は他グループと議論を交わす等、議論中心の授業が展開されている。こうした自由闊達な議論を中心とした学習が重要。
- 授業中は教員が教えることは最小限にし、質問と議論を中心に行う。十分な対話が出るよう多くても25人程度の授業が良い。
- 普通科の生徒の絶対数は多いため、この層をいかに育てていくか。カリキュラムに多様性を持たせ「市民」をキーワードに「人間力」や「社会人力」の育成を重視したカリキュラムが必要。新校においてみらい科がどのように発展していくのかも重要。
- 教師に教えてもらうだけでなく、生徒同士で課題等について自ら考えるような機会を作ってほしい。生徒がそれぞれ自分の人生や、幸せとは何かについて、自ら考え、結論を出していくような機会も設け、「自立した市民」を育ててほしい。
- 「たくましく生きる力」を身につけるため、定例的な学校行事だけでなく、頭だけでなく、「心」と「体」でも感じられるような様々な「体験」を生徒にさせてほしい。
- 一般的に、進学系のコースに所属していない生徒は自己肯定感が弱く、モチベーションもなかなか上がらない状態が見受けられることが多いため、進学系のコースでなくても、他のことで自信を持てるようなカリキュラム等を工夫することが必要。
- 高校段階で生徒に「これだけは誰にも負けない」という自信をつけさせてほしい。各個人が様々な経験を通じ、自分に自信を持っている人材は企業にとっても必要であり、新校の「目指す生徒像」は企業人にも合致する。
- 企業の職場で、従業員の仕事内容や職場の様子を観察する「ジョブシャドウイング」は、就業観や学習意欲の向上に繋がるものとして勉強になる。高校生ともなると、体験というよりも働く社員との交流のほうが有益であろう。

- 入学段階で生徒をAグループとBグループに振り分け、発表会や運動会等の校内行事はグループ間で競わせるなど、校内に競争原理を導入すると、生徒がやる気を持ち、様々なことに本気で取り組むようになるのではないかと。
- 単に語学力だけでなく、国際的な感覚を身につけ、率先して外国人とコミュニケーションをとれるようになってほしい。
- 海外から留学生を積極的に招いたり、海外の高校へ留学するよう促す教育ができれば良い。

## **2. 小・中学校等や地域との連携について**

- 地域との連携を通じて「京都のことが大好き」で、京都の文化や歴史に誇りをもつ生徒を育成してほしい。海外では、まず自国や地域のことを聞かれる。自国や地域のことを学び、自ら語るができるようになることが重要。
- 昨今、特に京都は注目されており、外国の人と積極的にコミットする上で大きなアドバンテージである。京都は清水焼や西陣織といった伝統のものが受け継がれているだけでなく、他の文化にも寛容であり、知っていれば海外でも通用する。
- 全国的にみても大学の数が多い京都の地の利を生かし、講師を大学・産業界や地域から招き「地域教養科目」を設置できないか。地域住民が受講可能な市民講座のようなものができれば、地域との交流も生まれる。
- 地元である唐橋地域は、住宅街として人が集まる地域となっており、昔から教育に対して熱心である。各団体の団長や、町内会長をはじめ、新しい高校ができることを楽しみにしているといった前向きな意見が非常に多い。
- 唐橋のように、幼稚園（民営）と市立の小学校から高校まである学区は市内で他になく、地域の清掃活動にしてもすべての校種が参加してくれる。また、唐橋小6年生、洛陽工の生徒、地域の大人等が危険な場所を歩いて確認する取組も行っており、こうした地域の大人と子どもを繋ぐ役割を高校生に期待する。新校においても地域との取組は継続してほしい。
- 唐橋独自の伝統文化として、松尾大社の祭りで使う神輿を学区として有している。神輿の担ぎ手についても高校生に声かけをしているので、そうした伝統文化事業にも協力してほしい。
- 地域連携の一助にもなるため、福祉につながる部活動があっても良い。
- 南区には企業が多いため、地域の企業との連携も進めてほしい。

### **3. 学校体制等について**

- 全国の参考になるような、京都らしい教員組織の在り方を検討してはどうか。京都は学者や文化人が多く在住している。また、今後、海外勤務の経験がある商社の方や、各分野で活躍した方々が数多く退職していくが、自分の経験を子どもたちに伝え、今後に生かして行ってほしいと思っている方は多いはずである。こうした人材を活用することで、ローコスト・ハイクオリティーな組織づくりを構築できないか。
- 外部人材を活用する際は、外部との調整だけでなく、何の目的で誰を呼ぶのか等といったマネジメントを行う「コーディネーター」が重要となる。

### **4. 施設等について**

- 部活動等、まとまった活動をするには一定の学校規模が必要。規模が小さければ学校の活力にも影響してくるため、「1学年で6学級(240人)」ではなく、8学級程度で検討してはどうか。
- 小・中学校にはない施設の整備や、現在洛陽工が行っているロボットに関する取組等、小・中学生が新校に集うような工夫をしてほしい。
- 新校は災害時の帰宅困難者等が宿泊できるような施設を備えた「地域の防災拠点」の観点からも整備してほしい。
- 「地域に開かれた学校」となれば、不審者への対応も必要だが、普段から人の出入りがあるほうが、人の目があるため、不審者対策になる。一見学校に見えないくらいオープンな施設でも良い。

## 3 教育課程や教育活動の具体化について(全体に関わる内容)(32件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
1	京都市南部を中心に、地域の子供たちをたくさん受け入れ、学力を伸ばして希望する大学に進学できるような学校をつくってほしい。 経済的に塾に通えない子どもでも、まじめに学校の授業を受けて努力すれば、国公立大学などお金のかからない上級学校に進学できるような指導をしてくれる「安心して子どもを任せられる(信頼できる)学校」がほしい。 部活や地域活動も大事であるが、学力を第一につけてほしい。	7	中学校卒業生のほとんどが進学し、大学等の高等教育機関への進学や就職など社会へ接続している高等学校においては、生徒一人ひとりの多様な可能性を伸ばすとともに、進路希望に応じたきめ細かな指導が求められています。
2	京都市南部の核であり、高校教育のモデルとなる新しい学校の創設に期待する。	6	こうしたもと、新普通科系高校(以下「新校」。)においては、「国際的な視野を持って主体的に社会に参画し、自立して社会生活を営むために必要な力」の育成をめざし、その基本コンセプトを「①生徒が主体的・自律的にいきいきと活動する学校」「②地域に貢献し地域と共に発展する学校」「③生徒の持つ可能性を引出し、高める学校」と位置づけております。
3	伝統ある洛陽工業高校の地に移転するので、洛陽の伝統を受け継いで、優秀な人材が輩出される学校になることを望む。	2	
4	これまで培ってきた塔南高校の良さを活かし、さらにすばらしいビジョンを持った学校へと発展することを期待する。	7	今後とも、両校がこれまで培ってきた伝統と成果を継承・発展するとともに、こうした基本コンセプトを教育課程にしっかりと位置付け、頂戴したご意見を参考にしながら、将来更に加速度的に変化する社会においても、習得した確かな知識・技能やそれを有効に活用して、人生を切り拓きよりよく社会に関わっていく資質能力を育む教育構想の具体化を進めてまいります。
5	この学校でしかないというような特色のある学校となることを期待する。近くにある鳥羽高校との違いはもとより、他の公立高校との違いを明確に示してほしい。	7	
6	不登校の生徒や家庭環境が厳しい生徒等、様々な背景を持つ子どもたちへの支援と、生徒の主体的な活動を通じた社会で通用できる教育活動を望む。	3	

3(1)京都の都市特性を最大限に生かした教育活動の在り方(8件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
7	京都の文化の発信地、集積地となるような学校づくりを行ってほしい。世界のどこにいても、日本、とりわけ京都という地域の持つ文化を理解し活躍できる人材の育成が大切である。そのため語学は当然であるが、古典・漢文などの基礎的教養をしっかり身に付けられるカリキュラムをとりいれてほしい。	2	頂戴したご意見の通り、京都は国内外からの最先端の文化や技術、学問をいち早く取り入れ、独自の洗練された文化や芸術、技術などを創出してきました。
8	文化・伝統は、様々な時代の最先端のものを受け入れ、京都のそれまでの伝統と融合されたものが少なくない。世界の文化や技術を京都独自のものにしていく洗練された融合性を授業で学ぶことができれば、今後の京都の発展の礎となるような人物を作り出せるのではないか。またそうした授業などに、生徒を含めて地域の人々が参加型で取り組んでいく活動を保証していただければと思う。	2	こうした変革への進取の気概とともに、「日本の心のふるさと」としての精神性や、多様な地域文化が人々の衣食住や日々の生活に受け継がれ、「文化芸術のまち」「ものづくりのまち」「大学のまち・学生のまち」「国際観光都市」など、多様な魅力と個性が輝いております。
9	京都という町は文化が色濃く残る町である。文学や絵画、音楽もその中の大切なひとつだと思う。音楽の授業の一環でお琴を教わったり、京都市の伝統芸能を受け継ぐ文化部の活性化などをしてほしい。	2	新校においては、こうした京都の多彩な都市の強みを最大限に生かし、「京都」を題材とした内容をカリキュラムに位置付けた教育を実施し、益々グローバル化が進む社会で、京都の伝統や文化に立脚し、広い視野で志高く多様な分野で京都はもとより日本の未来を創出していく若者を育成してまいりたいと考えております。
10	総合的な学習の時間を扇の要として、文理を含めた京都の伝統と革新の歴史を学ぶことのできる授業を行い、都市計画・文化芸術・産業技術などを学ぶ大学や、京都の観光を学ぶ専門学校に進学したり、生徒自身が新校で学び、京都に誇りをもって卒業できるような教育課程を編成してほしい。	2	→ <u>京都からわが国の発展に貢献できる人材育成などをまとめ案へ追記</u>

3(2)魅力あふれる教育課程の編成と授業の在り方(24件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
11	部活動に力を入れたい生徒や学力が中低位で入学する生徒にも、基礎学力の定着をおろそかにせず、将来、大学進学も含め社会で活躍するために必要な学力や生きる力をしっかりと保障できる学校を作り上げてほしい。	11	これからの社会では、知識・技能の習得に加え、自ら課題を発見し、他者と協働して課題解決する力などが必要となります。このため生徒が生涯にわたって自己実現を果たす力を培うとともに、社会を知り、視野を広げることで高い目標を抱き、主体的に学習に取り組む教育課程の編成を目指してまいります。
12	学校は生徒たちが主役である。アクティブラーニングを導入し、教師ではなく生徒が主体となった授業づくりをしてほしい。	2	南区や唐橋地域の近辺には、多くの企業が集積しており、そうしたベンチャー精神や起業家マインドあふれる企業者の方々の協力の下、生徒が将来展望や視野を広げるためのインターンシップ、講義などを実施してまいりたいと考えております。また、地域の方々と協働して課題解決に取り組む学習等、生徒が主体的に取り組める活動を展開してまいります。
13	大学の授業形態やアクティブラーニングが本当に必要なのかは、慎重に議論していただきたい。	1	なお、現在、塔南高校では新校につながる教育実践を進めており、企業でのインターンシップや京都大学の研究室訪問などが新たに実施されています。
14	京都という魅力的な街に住む利点を生かし、国際交流プログラム(海外研修)に取り組み、グローバルな視点を育てることは重要であると思う。各教科で英語のみで授業を行ったり、企業だけでなく、大学・短大・専門学校に協力してもらい、講義や授業を体験できるインターンシップもできるとよい。	10	<p>→ 「<u>将来にわたって必要な力</u>」や「<u>企業との連携</u>」に関してまとめ案に追記</p>

3(3)生徒の主体性を引き出す教育活動の在り方(297件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
15	「教育者主体から学習者主体へ」という、教育観の転換を明確に反映した学校になるよう切に願う。新校では生徒が主役になり、主体的、能動的に学び、いろいろな活動に積極的に取り組める学校であってほしい。生徒のニーズに合わせた文化祭の在り方や研修旅行の行き先の決定など、楽しい学校生活の演出も必要である。	61	頂戴したご意見にあるように生徒が苦勞しながらも成就感や達成感を味わいながら、生き生きと楽しく活動することにより、コミュニケーション力や社会人としてのマナーなど社会で必要となる力を身につけることができると考えております。
16	勉強だけできても社会では通用しない。コミュニケーション力をきっちりつけることや、学生の時の多様な経験は、大人になってから活かせる。新校では偏差値だけを求めるのではなく、それ以外の事で飛び出る魅力のある学校にして欲しい。	3	このため、新校においては、生徒が主体的・能動的に学習するとともに、学校行事においても、企画・準備・実行・検証といった過程に生徒が参画できる活動の在り方を検討してまいります。  既に、塔南高校においては、生徒会が中心となり本「中間まとめ」へのパブリックコメントの実施と取りまとめが行われ、また、生徒の意見を受けて、より生徒が主体となる「体育祭」や「文化祭」のあり方の見直しが検討されています。
17	生徒が主体的、能動的に学び、高い学習能力・人間としての優しさや誠実さを身に付け、社会人基礎力をつけることのできる学校であってほしい。言葉づかいなど、社会人としてのマナーも身につけてほしい。	2	
18	部活動については、体育系、文化系を問わず活性化し、「文武一貫」を本当の意味で実現し、部活動も勉強も頑張り切らせる学校づくりを期待する。進学希望者もきっちり支える体制づくりを。	91	現在、塔南高校は、学習と部活動の両面から人間力の向上を目指す「文武一貫」を教育方針に掲げており、部活動においては全国大会に出場する部を含め、活発な活動が行われています。新校においても、この伝統を引き継ぐとともに、より充実した環境のもとで、体育系、文科系を問わず活発な活動が行えるよう条件整備を進めてまいりたいと考えております。
19	よりよい学校づくりをしていく中で、部活動と勉学の両立を目指すのか、それとも勉学に力を入れる、または部活動に力を入れるのかをはっきりさせておかないと現在のように中途半端な学校になってしまう。	2	
20	吹奏楽部をはじめ、全ての部活動が高校生の自主性を尊重した活動とするべき。	135	反面、高校生活の充実感が部活動のみになったり、学習に向き合えなくなる生徒がいることも事実であります。そのため、新校では、全ての生徒が多様な委員会活動や学校行事に参加し、生徒の自己有用感などの自尊感情を高めながら、主体的、自律的に学ぶ意欲と態度を育めるよう検討してまいりたいと考えております。
21	部活動に関して文化系や同好会など、生徒の居場所となるような部活動も充実してほしい。特に地域で活動するボランティア部などがあれば、学校が地域住民の信頼を得られるのではないか。	1	
22	「学期毎に登録できる部活動」など、現実的にできるのか疑問。	1	
23	部活動について、休養日の設定や外部指導者の登用を進めるべき。校外の方の指導の下、在校生が活動の指針を決定できるような部活動の在り方を実現してほしい。	1	<b>→ 部活動の在り方と教育活動との両立などをまとめ案に追記</b>



3(4)小・中学校等や地域と連携した教育活動の在り方(19件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
24	地域の大人と子供たちを結びつける役割が高校生にはぴったりだと思う。カフェテリアの運営への高校生の参画、地域行事への積極的な参加や地域でのボランティアなどを通して、生徒が多様な人々と協働する力も高まる。また地域の方に学校行事に参加していただくことも重要。	11	これまで本市においては、小・中学校を中心に、地域に開かれた学校づくりを積極的に進め、学校運営協議会をはじめ地域とともに歩む学校づくりを進めております。高等学校においても、学校の所在地以外からも多くの生徒が通学しているなか、各校とも積極的に地域連携事業を推進しているところです。
25	小中学生向けに科学学習や大人向けの講座が生徒の手で開催され、生徒たちのプレゼンテーション能力の向上、地域貢献の意識の醸成を図る。近隣にある企業からも協力を得て実施してもらいたい。	1	新校においては、地域とともに歩む学校として、塔南高校の教育みらい科での小学校との連携事業を引き継ぐとともに、洛陽工業高校での地域清掃、防犯・防災等のボランティア活動や福祉施設等との連携事業をさらに発展させてまいります。頂戴したご意見にもあるように、生徒が企画運営する小中学生向けや市民向けの講座の開催や幼児との交流、地域開放型のカフェテリアでの就業体験などを検討し、世代間の交流を創出してまいります。
26	人格の完成や、街・社会・時代を創っていくことなどが教育課題になるような学校であってほしい。大人にも正解が見えない難題を、地域社会が高校生とともに解決していく、そうした学校になることを望む。地域を知り、世界にも目を向けられるグローバルな人材を育成してほしい。これからの時代では「いかに生きていくか」という難問と向き合うこととなり、どんな時代を迎えようとも、生きるすべを自ら見つけ、仲間と支え合い、新しい価値観を創り上げながら生活を営むたくましい市民の育成を目指してほしい。	2	こうした取組により生徒が仲間と支え合いながら世代を超えた交流を通して新たな価値に出会うなど、地域の中で成長する生徒を育むとともに、学校・家庭・地域がともに学校運営について連携して取り組み、行動する本市初の高校でのコミュニティスクールの実現を目指したいと考えております。
27	地域と連携のできる教育の場として、一般市民に一部開放して頂けるような教育施設を考えてほしい。小中学校や幼稚園との連携など、唐橋地区の特色である「豊富な校種」を生かしてそのような学校づくりをお願いしたい。	3	<u>→ 地域の課題解決に向けた学習や幼児、小中学生への発信などをまとめ案に追記</u>
28	唐橋小学校、南大内小学校、八条中学と小中高一貫制の学校の新設を願う	1	<u>→ 仲間と支え合い新しい価値を創出するなどをまとめ案に追記</u>
29	公立高校の入学選抜制度の変更により、地域との連携が薄れる中、小中学校及び地域の連携が計れるか。また、地域に住んでいない生徒が地域の事に理解があるか疑問。	1	

3(5)チームとして協働する学校の在り方(11件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
30	各部活動顧問に、深い専門的知識と高い技術力を備えたベテラン教員や、やる気のある若手教員を積極的に配置してほしい。生徒理解を深めながら教授スキルを研鑽する意欲的な教員。将来のキャリア発達に必要な視点から、部活だけをさせることなく”勉強”させる教員が必要。	5	<p>昨今全国的に、業務の複雑化や多忙化が問題となっており、それぞれの教員が専門性を発揮するとともに、全教職員がチームとしての学校力を高め、組織として教育活動を行う必要があります。</p>
31	生徒の主体的な学びを支えるプログラムを学校全体で共有し、教員が「教科指導」と「生徒指導(=カウンセリング)」の2点に十分注力できるような環境整備が望まれる。具体的には、事務員の大幅増員、大学生の活用、退職校長・教員の活用、外部コーチ制度の導入など。	3	<p>新校においては、教科や分掌の枠を越えて協働して生徒の教育にあたるよう、教職員のチームとしての力を高めていくことが重要であると考え、チームビルディングやコーチングに関する研修を充実し、教職員の意識改革につながる取組を実施してまいりたいと考えております。</p> <p>また、教員が生徒・保護者と向き合える時間を生み出し、教科指導や教育活動に専念できるよう、企業や大学などと連携した学びを専門的にコーディネートできる人員を配置し、外部の人材を有効に活用できる支援組織(サポートボード)を設置してまいりたいと考えております。</p>
32	いっどんな場合でも生徒を中心にものごとを考えていただける先生方であってほしい。一人ひとりの学力に応じた指導ができるように教員が生徒の学力や可能性を把握し、アドバイスできるように授業や進路指導をしてほしい。保護者懇談会や三者面談、参観など教員と保護者の関わりも充実してほしい。	3	<p>→ <u>外部人材の活用などについてまとめ案に追記</u></p>

## 4(1)生徒が主体的・能動的に学びあう施設・設備(699件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
33	少人数講座も展開できる十分な教室が必要。	2	<p>現在、高校教育においても、講義形式の授業から双方向での授業や生徒間での話し合いや発表の機会の充実へと授業形態が変化してきております。</p> <p>新校では、塔南高校が現在抱える交通の利便性や施設の老朽化、狭い敷地などの課題を解決すると同時に、新しい教育の在り方に対応し、より充実した環境のもとで教育活動が展開できるよう施設整備を進めてまいります。</p> <p>少人数講座やアクティブラーニングに適した教室、プレゼンテーションホール、ICT機器の整備など、生徒が主体的・能動的に深く学び合う施設や、カフェテリアなどの憩いの場づくりなど、具体的なご意見をたくさん頂戴しており、今後の施設設備の検討に生かしてまいります。</p> <p><b>→ 少人数での講座や補習が展開できる教室や大講義室に関してまとめ案に追記</b></p>
34	生徒と個別に話しができるブースや、補習など個別に指導できる教室の設置	1	
35	生徒の憩いの場となる、カフェテリア、中庭、売店の充実、憩いのスペースを設置してほしい。	47	
36	wifi環境を整備し、充実したICT機器を積極的に活用する。	40	
37	図書館、閲覧室スペース、自習室、教室以外での空間にも自由に議論が生まれるスペースの整備。	26	
38	プレゼンテーションや交流行事ができるホール、1学年程度がおさまる大講義室の設置。	9	
39	アクティブラーニングをより円滑に実施するため、机間支援を行いやすいようにゆとりのある教室作り。	1	
40	二足制。環境に配慮した冷暖房設備や校舎の在り方など、校舎をきれいに保ち居心地の良い空間としてほしい。	248	
41	調理実習室は食品を扱うため、黒板よりもホワイトボードのほうが好ましい。被服室に関しては、実習をしていないときは講義室として使えるような構造にしておく。	1	
42	コンサルタント会社の企画書のように具体性に乏しい。例えば「中間まとめ」4の「ICT機器」とあるがWifi環境とITスキルとはなんの関係もない。高校でどういう人を育てるかと言うことを具体的に議論すべき。	1	
43	その他生徒が快適な学校生活を送れるように整備してほしい(冷水器の設置。プールについて。自動で出る蛇口の設置など)	323	

4(2)「魅せる高校」のための施設・設備(367件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
44	文化・芸術に対応した施設を整備し、文化教養行事を充実させることを要望する。	6	<p>新校での文化芸術活動のための施設や生徒の発表等の教育活動が行える科学系の施設、多様な学習合宿や留学生の受入れのための宿泊施設などのご意見を頂戴しており、具体化に向けて検討してまいります。</p> <p>また、そうした特色ある施設についてはできる限り地域の小中学生や住民の方々にも開放していきたいと考えております。</p> <p><b>→ 小中学生と共に学ぶ施設をまとめ案に追記</b></p>
45	部活動の合宿や留学生の宿泊としても活用できる宿泊施設の整備を希望する。	7	
46	サイエンスラボ、さらに、子どもたちや地域の大人向けにもワークショップや実験などができ、しかも、前でデモンストレーションをすることを想定したつくりのサイエンスステーションとかサイエンスシアターのような部屋があると良い。また、現在の塔南高校にある天文台の施設を移設してほしい。小中学生と共に学ぶための施設を設置してほしい。	2	
47	全ての部活動が充実した活動ができるよう、現グラウンドの継続使用も含め、体育館やグラウンドの整備を行ってほしい。	114	<p>現在、塔南高校は、「文武一貫」を教育方針に掲げ、学力向上と部活動の充実の両立を目指しており、全国大会に出場する部活動も複数あります。施設設備について、特に野球部や吹奏楽部に関するたくさんのご意見を頂戴しております。</p>
48	マーチングの練習や演技で使える防音機能を備えたアリーナを設置すれば、運動部、文化部問わずに有効に活用できる。	116	
49	吹奏楽部のためのパート練習のできる防音室が必要。楽器が安全に置ける楽器庫を設置してほしい。	24	<p>両部をはじめとして、充実した活動ができるよう施設・設備を検討してまいります。また、あわせて、そうした活動を市民の方々にも見ていただけるような工夫を検討してまいります。</p>
50	野球や陸上部などの専用グラウンド。ナイター設備。人工芝など運動部施設の充実と「観る・支える」スポーツを支える観客席を備えた施設を希望する。	98	<p><b>→ 文化部活動の施設の充実についてまとめ案に追記</b></p> <p><b>→ 体育館等の施設充実をまとめ案に追記</b></p>

## 4(3)地域が輝く施設・設備(198件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
51	校外から出入りの出来る, 同窓会や地域の方々との共同利用会議室の設置, 洛陽工業高校の跡地であることを示す記念碑の設置と資料展示室の設置。	21	<p>新校が, 地域のシンボルとなる学校となるよう施設面の整備も行いたいと考えており, 頂戴したご意見をもとに, 学校施設に寄せられる防災面への期待に応えられる防災機能の充実など, 地域の方々にも開かれた施設になるよう, 施設設備の具体化を図ってまいります。</p> <p>また, あわせて一般の方との共有スペースと教育活動のスペースを仕切るなど安全面にも配慮した施設になるよう工夫をしてみたいと考えております。</p> <p><b>→ 地域・同窓会で活用できる部屋, 安全面での配慮などをまとめ案に追記</b></p> <p><b>→ 地域のシンボルとなる施設や障害者就労事業等についてまとめ案に追記</b></p>
52	民間事業者や障害者就労事業所等も活用した, ゆとりのあるおいしいカフェテリアや図書館, サロンなどを設置し, 一般の人にも開放してほしい。	116	
53	地域と共生できる学校にして欲しい。たとえば, 学校行事に保護者関係だけでなく, 地域住民も気軽に参加できる学校。	6	
54	災害発生時には, 新校が避難場所としての役割だけでなく地域の災害対策本部としての機能を備えるなどしてもらいたい。	4	
55	地域に開かれた学校施設は, 唐橋地域のシンボルとなるようなものにしてほしい。体育館やスポーツジム・ホールなど地域と共用にできればよい。	2	
56	生徒の安全に配慮された学校。バリアフリーな学校としてほしい。	35	
57	新校の最寄り駅であるJR西大路駅から新校までの通学路を, 学び舎へと通ずるプロムナードとして整備することを期待する。学校の柵を少し内側にして, 生徒や通行人が歩きやすくしたほうが良い。駅に近いところに校門を設置。	3	
58	現校舎はまだ耐震化工事もせず, 老朽化したまま何年も放置されている。階段, 教室, トイレ, 一足制など生徒の安全面, 衛生面, 精神面を考えると本当に厳しい状況である。生徒に選んでもらうには校舎の学習環境の改善は早急実現されたい。	11	

## 5(1)学校規模について(3件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
59	現在の塔南高校より少ない1クラス30人以下とするなど、少人数編成の講座授業が良い。	2	新校の学校規模については、学校全体で840人程度で想定しております。府内の中学生の生徒数は今後、減少傾向にあります。新校を普通科系高校として、活気のある学校にするためにも現在と同程度の規模が必要と考えております。
60	地域から身近に感じられる公立高校であり、募集人数も多い方が良い。	1	

## 5(2)設置学科について(44件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
61	教育みらい科の教育課程には、教員にならなくても高校生に必要な要素が含まれている。みらい科でできない取組(教育チャレンジ・人間学・小学校での実習・研修旅行)は存続させ、学力も社会人としてのスキルも向上する教育活動を実施してほしい。	29	専門学科については、学校の特色を表すものとして、現在、多くの普通科系高校でも設置されています。塔南高校教育みらい科は、全国で初めて設置した教員養成専門学科であり、教育みらい科の卒業生は、京都市立学校の教師となるなど、多方面で活躍しております。そうした成果をしっかりと検証し、新校に設置する学科については「教育みらい科」の発展・見直しも含め、頂戴したご意見を参考にしながらさらに検討を進めてまいります。
62	教育みらい科にこだわらず、将来を見据えたコースの設置など(ITや福祉)新しい学校に合う内容に変えていくべき	2	
63	他の市立高校にない「理数科」を複数クラスで設置し、市内に限らず北部や南部の生徒も受けられる学科があるほうが良い。	1	
64	新しい学科を設置するなど、生徒の選択肢を増やしてほしい。	6	
65	コースや学科(文系・理系・現在のみらい科の発展・部活動の活動保証コース・就職につなげるコース等)を設置し、生徒の希望進路を保障する。進学を目指す学科・コースとスポーツや吹奏楽、資格取得等の学科・コースを分ける方が良い。	4	
66	学習障害のある子どものために、少人数制など学びやすい環境の学科の設置をお願いしたい。	1	
67	(設備等の充実した)普通科を継続する。	1	

中間まとめに関するもの以外のご意見(79件)

No.	ご意見の内容・趣旨	件数	本市の見解・考え方
68	塔南高校の移転後の土地は、何に活用されるのか。地域の意見も聞きつつ、引続き京都市南部の教育や子育ての拠点となるものに活用していただきたい。	3	50年間塔南高校があった歴史を踏まえ、地域の方の声をしっかりと聞きながら、また京都市全体の観点から跡地活用については検討してまいります。
69	母校がなくなるのは寂しいので、塔南の名前は残して欲しい。	50	校名については同窓会やPTA等関係団体の意見も含め、今後、開校までに校名の在り方や検討を行う組織の設置などについて検討してまいります。
70	〇〇塔南や塔南〇〇高校など、「塔南」を引き継いでほしい。	5	
71	京都市全体から愛される高校を目指してほしいため、校名は南区のイメージが強い「塔南」ではなく「西大路高校」等への変更を希望する。	1	
72	塔南高校をそのまま継続してはどうか。洛陽工業高校跡地を、市民が利用できる施設としてほしい。	1	
73	立地が駅の近くなるため、広域に住む生徒が進路先の選択肢の一つとなるなど、移転による効果が期待できる。	11	
74	こんなアンケートで何の役に立つのか疑問。税金の無駄遣い	1	
75	新しい学校への改革は、突然変化させると子どもの負担となる。また今の塔南高校を見て、進路先を考えるため、現在の在校生を含め段階的に進めていくべき。	1	
76	これからの時代にふさわしい高校として、様々な観点から議論するため、多くの方々(地域や中学校教員、現役塔南高校生など)の意見を聞いてほしい。	6	本市としては、塔南高校の施設等の改善や交通利便性の解決のために移転をし、新しい普通科系高校へと再編する方針を定めているところです。今後とも広く市民の皆様からもご意見を頂戴して検討を進めてまいります。